

本丸御殿

本丸御殿は、江戸時代（1603～1867）に皇室の分家のために建てられた宮殿の数少ない現存例の一つです。その形態と設計は、京都在の将軍の旧邸宅であった二の丸御殿とは大きく異なります。

屋根の丸みを帯びた線から装飾の簡素さまで、本丸御殿は、将軍の宮殿が威圧的で、豪華であるのに対し、控えめな優雅さを持っています。内部の襖や仕切りには、花が溢れる漆塗りの車など、古典的な宮廷モチーフが描かれています。一部の仕切りは、銀や黄土で雲や鶴、その他の繊細なデザインを描いた木版刷りの壁紙が貼られています。

1894年に明治天皇（1852～1912）の命により、宮殿の4つの建物が現在の場所に移されました。これらは元々、桂宮家の邸宅である桂宮御殿の一部でした。桂宮家は、皇室の本家が後継者を生まなかった場合に皇位継承者を提供するために設立された4つの皇族の宮家の1つでした。明治天皇の叔母、淑子内親王（1829～1881）がこの家系の最後の当主で、後継者を残さずに亡くなりました。

本丸御殿では、皇族の宮家の生活、特に審美的な趣味を垣間見ることができます。本丸御殿は重要文化財に指定されています。